

早生品種の穂肥時期が近づいています ～「みずかがみ」は6月25日頃から～

- 登熟期における栄養不足を回避するため、**穂肥は適期に必要な量**を確実に施用することが重要です。
- 今年は移植日やほ場条件による生育差が大きくなっています。
- 幼穂長や茎数・葉色を確認し**、穂肥の施用時期と施用量を調整しましょう。



幼穂長 1 mm

写真：幼穂形成期のイネ

品種ごとの穂肥の目安

品種	施用時期	施用量
みずかがみ	幼穂長 1 mm	窒素成分 3 kg/10a (大豆跡：1.5～2.1 kg/10a)
コシヒカリ	幼穂長10mmと その1週間後	それぞれ窒素成分 2 kg/10a

- 基肥一発体系では原則穂肥の施用は必要ありません。**
ただし、「みずかがみ」で茎数が25本/株以下の場合は、収量確保のために窒素成分で2 kg/10a程度施用しましょう。
- 食味低下防止のため、穂肥は遅れずに施用しましょう。
- 環境こだわり農産物では合計化学肥料窒素成分4 kg/10a以内を順守してください。
- 出穂期前後は水稻が最も水を必要とします。**出穂前後各3週間（目安：幼穂形成期～）を常時湛水**とすることで玄米品質の低下を軽減しましょう。



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

- ①暑い時間帯の作業を避ける
- ③単独作業を避ける

- ②こまめな休憩と水分補給
- ④熱中症対策アイテムの活用

次回：7月7日頃発信予定